



清教学園 創立 75 周年

「何のために勉強するのか」

2026 年 7 月

高校教頭 慎 繁範

イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」

(ヨハネによる福音書 20 章 21 節)

今年、清教学園は創立 75 周年という大きな節目を迎えました。この長い歴史のなかで、数多くの先輩たちがこの場所で学び、それぞれのミッション（使命）を携えて社会へと巣立っていきました。この記念すべき年に、学園の日々の歩みの根幹にある一つの根本的な問いをみなさんに投げかけたいと思います。

「皆さんは、何のために勉強するのでしょうか」

試験や日々の課題を目の前にしたとき、「良い点数を取りたい」「周囲からの評価を上げたい」「少しでも有利な進路を選びたい」といった思いが胸をよぎるかもしれません。しかし、思うような結果が出ないときに「自分には才能がないのではないか」と挫折しやすくなり、常に不安やプレッシャーに追われることになってしまいます。心が不安で閉ざされそうになるとき、私たちはどのようにして学ぶ本当の理由を見出せばよいのでしょうか。その大切なヒントが、上掲の聖句のなかに隠されています。

舞台は今から約 2000 年前のエルサレムです。指導者であり、心の拠り所であったイエスが十字架で処刑され、残された弟子たちは「次は自分たちが標的になるかもしれない」という恐怖のなかにいました。彼らは強い不安から、部屋の戸に鍵をかけ、心を固く閉じこもらせていたのです。そんな絶望と不安で押しつぶされそうになっていた弟子たちの前に、復活したイエスが現れ、最初にこう語りかけました。

「あなたがたに平和があるように」



この「平和」という言葉には、極めて深い意味があります。ヘブライ語で「シャローム」という言葉ですが、単に平和を表すだけでなく、神から与えられる「完全な平安、心身の健康、満ち足りた祝福、神との和解」を意味しているのです。つまり、イエスは弟子たちにまず心の落ち着きを与えようとされたのです。そして弟子たちに対し、イエスは核心となる言葉を続けます。「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」と。

この世界を造り、限りない愛を注いでくださる父なる神からイエスへ、そしてイエスから弟子たちへ。イエスは、神の愛を世界に伝えるという最も尊い使命(ミッション)を弟子たちに引き継ぎ、彼らを送り出されたのです。この委託の言葉によって、絶望と不安に満たされていた弟子たちの心は、180度転換して熱く燃やされ、ここから世界中へと神の愛のメッセージを届けていくことになるのです。

アメリカのスタンフォード大学が、2014年にある興味深い研究結果を発表しました。数千人の高校生を対象に、日々の学習において「自己超越的な目的」——すなわち、「自分の学びが、いつか社会の役に立ち、誰かを助ける力になる」という意識を持っている生徒ほど、困難に対する高い忍耐力を持ち、最終的に優れた成績を収めることが明らかになったということです。

「自分のためだけ」の勉強は、壁にぶつかったときに脆く崩れてしまいがちです。しかし、「誰かのために」と捉えることができる生徒は、目の前の課題を粘り強く、その試練をも意味のあるものと考えて、乗り越えていくことができるのです。その「誰か」が具体的に誰なのか、どのような事柄なのかは、今はまだ分からなくても構いません。目に見えない神の計画を信じ、目の前にいる人だけではなく、世界中の人々に誠実に仕えようとする思い。それこそが、真理を学び続けるための揺るぎない原動力となるのです。イエスが願われた平和を、隣人と共に築いていくために、「わたしもあなたがたを遣わす」という御言葉を胸に、一人ひとりに託された賜物を豊かに生かし、日々の学びに励んでいきましょう。